



いせはら生涯学習 ボランティア協会ニュース

第 307 号 2026 年 9 月号

会長 逢坂伸一

みなさんご参加ください！いせはら市民大学・楽しい講座に

いせはら市民大学は今年で開講22回目を迎えます。今年度は伊勢原市政について副市長との対話があったり、修学旅行で市内の有力企業へ行けたりして、知的好奇心を満足する講座ばかりです。特に、お勧めする講座は11月17日(土)にある「富士山噴火に備える・救命活動の実践」です。特集を組んで放送したNHK番組「富士山噴火」をご覧になった方も居られると思いますが、伊勢原市役所危機管理課は独自に、詳細は未定ですが地域防災計画「火山噴火(富士山・箱根山)の対策」を作成しましたので、市民大学の講座に採用する事にしました。このような防災計画は県内他市には殆どありません。東京都でも火山灰が10cm近く積もると言われ、停電やスリップ事故が多発するとも言われています。それよりも恐ろしいのが、物流障害で食料が届かない事態が発生します。それと停電により水道水も届きませんので、人間が生存していけません。それではどうすれば良いのでしょうか？答えは、この講義の中にあります。

①噴火とはどういうもの(メカニズム)なのか？

②どのような被害が生じる怖れがあるのか？

③被害が発生した場合の対処方法はどうするのか？

④特に身体的対処(火山灰から身を守る方法)について



← 中谷悦子さん作

この講義を受ければ、全て理解出来ます。是非、受講してみてください。

私が市民大学に参加して感じたのは、受講生の「向上心の高さ」です。90歳から50歳位の人達が、歴史・社会情勢の理解や医療に対する知識の習得の為、学習しているのを見ると感心すると同時に見習いたいという思いが強くなりました。市民大学にはお役に立つ講座がたくさんありますので参加をお待ちしております。

(編集長 杉本)

～新役員紹介～ いせはら生涯学習ボランティア協会

歴史と景観に見せられて ～伊勢原の文化を未来へつなぐ～ 中村 一人

いせはら生涯学習ボランティア協会の第27回定期総会で新たに役員となりました。よろしくお願いいたします。

私は、富士山と大山が一望できる素晴らしい景色に惚れて、隣の厚木からこの伊勢原市に居を構え、四半世紀が経ちました。我が家のバルコニーからは、世界遺産の富士山と日本遺産の大山を一望することができます。この素晴らしい景観を眺めながら過ごすティータイムは、私にとって何よりの至福の時間です。

伊勢原市には、この美しい自然だけでなく、大山阿夫利神社や日向薬師、そして太田道灌ゆかりの地など、全国に誇れる豊かな歴史文化が息

える「歴史博物館」や「歴史資料館」がないことを常々もったいなく、寂しく感じております。

伊勢原の宝を次の世代や市外の方へ正しく伝えるためにも、ぜひ市に博物館が設立されることを切に願っています。そんな私の趣味は、還暦を過ぎたところから始めた、神社仏閣・お城巡りです。これまで集めた神社の御朱印は600社を超え、御朱印帳は15冊を数えます。また、もともと戦国時代の歴史が好きだったこともあり、国宝の城や現存天守の城はすべて網羅しました。「日本100名城」は86城、「続日本100名城」と合わせると125城、城跡も含めればこれまでに570もの城に足を運んでいます。お城への愛が高じて、熊本城、二条城、中津城、宇和島城の4城では、「一口城主」としても登録しております。

こうした歴史・お城好きの人間として今まさに伊勢原市が力を入れている「太田道灌を大河ドラマに」という誘致活動には人一倍強い思い入れがあり、心から応援しています。

この度、縁あって学ボラの役員を仰せつかることになりました。これまでに培った知見や経験を活かし、学ボラをはじめ、地域のさまざまなボランティア活動の力になりたいと考えております。

伊勢原の素晴らしい歴史や文化を皆さまと共に学び、盛り上げていけることを楽しみにしております。どうぞよろしくお願いいたします。



↑ 数々の城主証

づいています。しかし、これほど素晴らしい歴史的文化がありながら、市内にそれらを集約して伝

長年の看護師経験を活かしたい

竹内 恵子

私はいせはら生涯学習ボランティア協会の第27回定期総会で、新たに役員になりましたので、よろしくお願いいたします。

私は、伊勢原に生まれ育ちましたが、伊勢原の歴史や文化遺産地域の事など知らない事ばかりでした。

子育ても孫育ても落ち着いて、今後何をして行こうと考えていた頃に、市民大学の事を知り、この2年間参加させて頂きました。伊勢原の歴史を始め、地域の会社見学・長寿社会のシニア向けの色々な講座等で、多くの学びを得る事が出来ました。

(P3に続く)

(P2 より続く)

高齢になっても学ぶ意欲と楽しさを知り、色々な方々との交流等で多くの喜びを得る事が出来ました。今回、役員として推薦され任命されましたが、何が出来るか不安ではあります。しかし、うけたからには前向きに頑張りたいと思っています。

ます。

私は看護師として 40 年以上の勤務経験から、ボランティア協会に参加する人達の健康面での見守りや援助活動等でお役に立つ事もあるのでは考え、協力させて頂きたいと思っておりますので、宜しくお願いします。

令和8年度(2026)「第22期いせはら市民大学・楽しい講座」実施計画表 「基本講座と補習講座」

	日時・場所	講座名	講師など
基 1	9月26日(土)13時30分 中央公民館3階会議室A	開講式・式典、(講座説明、 懇親会・合唱など楽しく)	式典で市長・教育長(予定)、 会長挨拶。説明(学ボラ役員)
基 2	10月10日(土)13時30分 中央公民館3階会議室A	伊勢原の市政を語り市民 対話の講座	副市長 大山剛氏
基 3	10月17日(土)13時30分 中央公民館3階会議室A	生涯学習・ボランティア活動 の重要性と学ボラの6つの 活動サークル発表	東海大学名誉教授 逢坂伸一 氏と各サークル代表
基 4	11月7日(土)13時30分 中央公民館3階会議室A	① 富士山大噴火に備える ② 救命活動の実践	市危機管理課 相原博氏 同山口剛氏、天野隆史氏
基 5	11月28日(土)13時30分 中央公民館3階会議室A	認知症の対策と進展を聞く 講座	徳洲会湘南厚本病院 顧問 畑下鎮男先生
基 6	12月5日(土)13時30分 中央公民館3階会議室A	伊勢原の歴史を学び文化財 を楽しむ講座	前市歴史文化推進担当部長 立花実氏
基 7	12月25日(金)10時00分 大山小学校	大山小学校校長室の「青い目」 の人形と県警殉職碑見学	元市教育委員 菅原順子氏
基 8	1月9日(土)13時30分 中央公民館展示ホール	第24回いきいきシニア 伊勢原まつり	新年挨拶、シニアとヤングの 芸能発表を楽しく開催
基 9	1月下旬 (予定、会社と折衝中)	修学旅行・鈴木油脂工場 見学	会社役員 関東唯一食用油の 再生工場見学
基 10	3月13日(土)13時30分 中央公民館3階会議室A	修了式(記念講演=生涯学習 コーディネーター・合唱と懇親会)	市長 教育長挨拶(予定) 学ボラ会長 逢坂伸一氏
補 1	11月21日(土)10時 伊勢原駅北口交番前集合 (雨天中止)	ミカン狩り	善波・高橋ミカン園
補 2	12月16日(水) 予定、市議会傍聴	市議会本会議を見学	議員の質問と回答を聞く(午前組 と午後組の2組に分かれて)
補 3	2月16日(火)14時00分 中央公民館展示ホール	困難を抱えた女性への支援・ 現状と課題	主催:市社会教育課 城西国際大学教授 堀千鶴子先生
補 4	3月7日(日)13時00分 市民文化会館大ホール	伊勢原市市民音楽会見学と 協力	主催:市社会教育課

*会場・講師の都合により変更されることあります。

*基本講座6回以上出席で修了証、全部出席で皆勤賞。補習は参加自由、出席日数には加算されます。

第 22 期いせはら市民大学・楽しい講座、9 月 26 日開講です！

～楽しく・仲間と共に、生き活きと暮すための講座～

第 1 回 講座名 開講式

日 時 : 9 月 26 日 (土) 13 時開場、13 時 30 分開講

場 所 : 伊勢原市中央公民館 3 階 A 会議室

次 第 : ・主催者挨拶(いせはら生涯学習ボランティア協会々長 逢坂伸一)
・来賓挨拶 ・第 22 期講座の説明 ・班編成と懇親会

第 2 回 講座名 伊勢原の市政を語り市民との対話の講座

日 時 : 10 月 10 日 (土) 13 時 30 分開講

場 所 : 伊勢原市中央公民館 3 階 A 会議室

講 師 : 副市長 大山剛 氏

役 員 会 議 予 定 表

No.	月 日		開催曜日	開始時間	行 事 内 容	該当者	場所
1	9	10	第 2 木曜	1400	事務局会議	該当役員	中央公民館 第 1 学習室
2	9	24	第 4 木曜	13:30	役員会	役員全員	中央公民館 第 1 学習室
3	10	8	第 2 木曜	1400	事務局会議	該当役員	中央公民館 第 1 学習室
4	10	22	第 4 木曜	13:30	役員会	役員全員	中央公民館 第 2 学習室

“編集後記”

暑さが急に厳しくなって来ました。世の中脱炭素を唱えて、近年の酷暑の原因を人間活動のせいにしていますが科学的根拠は無いように見えます。地球の歴史のなかで気温は太陽活動が大きな要素であるということははっきりしています。今年まさに太陽活動が活発になっています。おかげで北海道でもオーロラが見えたりしています。我々も時には真実/真価は何かと謂う疑いの視点も大事かと思えます。

編集部も若返り、変化する時代に取り残されないように、しかも足元を見ながら新しい時代に向き合った視点で臨みたいと思います。

(今回は都合によりこの編集後記を含め、前回(306号)の記事の再掲載の部分が有りました事をお断りします。)

会員皆様方からの投稿をお待ちしております。ジャンルを問いません。

投稿先(杉本): **【kazu-sen@dp.u-netsurf.ne.jp】**